

令和7年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

1 研究の内容

授業力向上（○）・道徳教育（ ）・キャリア教育（ ）・特別活動（ ）
カリキュラム・マネジメント（ ）・その他（ ）（内容： ）

2 学校の概要

<児童（又は生徒）数・学級数（令和8年（2026年）2月現在）>（単位：人）

プロジェクト校（研究指定校）	児童生徒数	教員数	校長名	研究主任名
荒尾市立荒尾第一小学校	455	32	大塚 真史	池田 穂乃花

3 研究主題

「主体的に学び続ける児童の育成」

～授業力・基礎学力・学級力向上の3つのアプローチを通して～

4 研究主題設定の理由

本校では、児童が自分たちで授業を進めようとする意識の高まりや学び合いを通して協働的に学ぶ姿が見られるという成果がある一方で、教師側が単元や授業のねらいを明確に持てないまま授業を行ったり、児童が「問い」をもてず、受け身になってしまったりという課題も見られる。また、基礎学力の定着が十分でない児童も多い。これらの実態から、熊本の学びと本校で取り組んでいるあらおベーシックをつなぎ、児童が自ら問いをもち、学習の課題解決に向けて学び方や方法を選択し、主体的に学び続ける児童の育成を目指し、主題を設定した。

5 研究の具体的な取組内容の実際

（1）授業力向上

①解決活動の工夫 ②教師の関わり

（2）基礎学力向上

①定期的な基礎学力調査 ②言語トレーニング ③読書・家庭学習の推進

（3）学級力向上

①学級力アンケートの活用 ②心理的安全性の確保

6 目指す成果【検証方法】

・教師による授業改善が推進され、県学力調査の結果が経年変化で昨年度を上回る。

【県学力調査の結果】

・主体的な児童の活動が促進される。

【教師による見取り、児童アンケート県学力調査の結果より】

・学習活動の展開と学習に対する意識の向上が見られる。【学級力向上アンケートより】

7 研究実施の実際

時 期 (月)	実施内容
4 月	グラウンドデザイン決定、研究推進会議
5 月	校内研究授業及び授業研究会
6 月	各部会の具体的方策の検討、共通実践 校内研究授業及び授業研究会 学びアンケート（1回目）
7 月	各部会取組反省 研究推進会議
8 月	各部会の具体的方策の見直しと検討
9 月	校内研究授業及び授業研究会
10 月	公開授業構想案検討 校内研究授業及び授業研究会 学びアンケート（2回目）
11 月	研究推進会議、校内研究授業及び授業研究会
12 月	校内研究授業及び授業研究会、公開授業（プレ） 後期後半取組反省
1 月	公開授業
2 月	本年度校内研修のまとめ 次年度に向けた課題の抽出 学びアンケート（3回目）
3 月	校内研究反省

8 市町村教育委員会の取組の実際

荒尾第一小学校の要請に応じて、様々な指導助言を行った。

- ・ 4 月 熊本の学びプロジェクト校情報交換会にて、研究の方向性について協議を行った。
- ・ 5 月 校内研修に参加し、子ども主体である「あらおベーシック」と熊本の学びについて、教職員に説明をした。
- ・ 7 月 熊本の学びプロジェクト校情報交換会にて研究の進捗状況について確認をし、今後の研究の進め方についての協議を行った。
- ・ 10 月 研究発表会に向けて案内状や研究リーフレットの作成について指導助言を行った。
- ・ 12 月 研究発表会に向けたプレ授業（1年、4年、5年）に参加し指導助言を行った。
- ・ 12 月 研究発表会に向けた研究リーフレットの内容や校正について指導助言を行った。
- ・ 1 月 研究発表会の運営についての協議を行うとともに、横断幕の作製に協力した。
- ・ 1 月 教育長をはじめ、教育委員など10名で参加した。

9 研究の成果【検証方法】

- (1) 教師による授業改善が推進され、県学力調査の結果が経年変化で昨年度を上回ることについて熊本県学力調査における同一集団の経年を比較したもの

※数値は県平均正答率を100としたときの本校の正答率

	3年	4年		5年		6年	
	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
国語	86.3	99.7	97.7	95.1	99.6	97.7	97.9
算数	83.7	91.5	93.2	91.2	103.2	109.3	105.4

- ・ 4年生では、国語は低下したが算数は向上した。
- ・ 5年生では、国語算数ともに大きく向上した。
- ・ 6年生では、国語は向上したが算数は低下した。
- ・ 3年生は経年比較はできないが、県平均よりも大きく下回っている。

(2) 主体的な児童の活動が促進されることについて

児童用アンケートの結果を6月と12月とで比較したもの（※肯定的数値）

	質問内容	6月→12月
1	授業では、自分の考えを持つことができますか。	79%→90%
2	授業では、習ったことやキーワードを使って、自分の考えを伝えたり話し合ったりできますか。	75%→84%
3	授業では、話し合ったことをもとに考えをまとめることができますか。	66%→82%

キーワード（学習の見通し、対話、まとめで児童に使わせたい言葉）の提示の仕方を工夫したことで、自分の考えを持って話し合い活動に参加できる児童が増え、主体的に学ぼうとする姿が多く見られるようになった。また、「深める発問」で一度立ち止まらせて考えさせることを意識したことで、より深い学びへと繋がった。

(3) 学習活動の展開と学習に対する意識の向上が見られることについて

児童用アンケートの結果を6月と12月とで比較したもの（※肯定的数値）

	質問内容	6月→12月
4	家で決められた時間（学年×10+10分）勉強（宿題）ができますか。	75%→76%
5	朝学充や学充の時間を通して、漢字や計算の力がついてきたと思いますか。	81%→83%
6	たくさん本を読んでいますか。	70%→68%
7	尋ねられたことに対して、答えることができますか。	73%→80%

朝学充（15分）で国語の短文問題、学力充実タイム（45分）で算数の計算問題などに取り組んだことで、児童自身が漢字や計算の力がついてきたと実感できた。その実感が学習への意欲へ繋がった。また、問答ゲームとして、簡単な質問に対して自分の考えを伝え合う活動をしたことで、尋ねられたことに答える力が身に付いた。授業の中でも相手の意見を聞くだけでなく、「どうしてそう考えたの？」とさらに理解を深めようとする場面が見られた。

読書・家庭学習の推進については、「たくさん本を読んでいるか」という項目は、数値としては低下したものの、貸出冊数は去年の同時期と比較して約1万冊も増えた。家庭学習計画カードを学年の実態に合わせて作成したことで、児童が家庭学習時間を意識した上で、タブレット等も使用しながら計画的に家庭学習に取り組むことができた。

1 0 研究の課題と今後の展望

自分の考えをうまく伝えさせるために工夫して発表できるように、相手意識や目的意識を持たせた対話ができるように指導を続けていく必要がある。また、学習の基礎となる知識・技能を身に付けさせるために、指導と評価の一体化を図り、教師が確実に見取り、適切なフィードバックを行う必要がある。

本事業を通して、本校としては様々な大きな成果を得ることができた2年間だった。主体的に学び続ける児童を育成するために、教師も学び続けなければならないと思う。今回の研究を糧に、さらに研究を深めていきたい。

1 1 研究成果の普及

○1月の研究発表会に向けて、教職員の参加体制を12月の市校長会で、海陽中学校区の全職員参加と他中学校区の3名の参加を提案し、市内の多くの先生方に荒尾第一小学校の子供の学びの姿を市内へ広げることができた。当日は、約200名の参加（管内、管外、県外を含めて）があり、研究成果を広げることができた。

○荒尾第一小学校の取組の成果を市校長会や各種研修会等を通じて市全体に広げ、子どもが主体となる授業改善や学力向上に向けて更なるあらおベーシックの充実を目指していきたい。